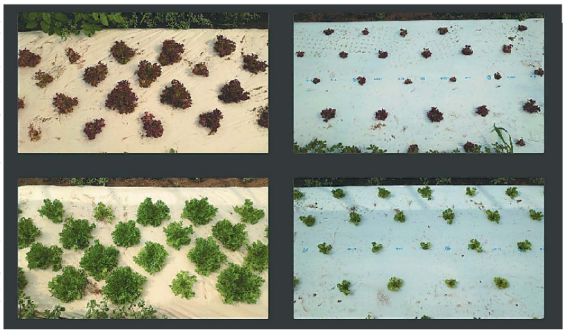
2026年07月20日(月)　日本農業新聞　総合１面１２版

紙マルチ 引き強まる

ナフサ不安 メーカー問い合わせ急増

中東情勢の悪化で、マルチフィルムの原料のナフサの不足感が高まる中、代替となる被覆資材として、紙製マルチシートの引き合いが強まっている。紙マルチのメーカーには、農家からの注文や問い合わせが急増。一般的な樹脂製マルチとの価格差も縮まっているという。一方、使い方や効果は樹脂製マルチと異なる点もあり、メーカー各社とも、まずは試験導入を勧める。



左が紙製マルチ、右側が白黒マルチで栽培した施設レタス（王子エフテックス提供）

使い方・効果 樹脂製と違い

売り上げ3倍も

紙マルチは、再生紙など紙を原料に作るマルチのこと。一般的な樹脂製マルチと同様、日光を遮って、地温や雑草を抑制する。メーカーによると、特に高温に弱いレタスといった葉物類などに適するという。紙のためすき込めば分解され、回収不要な点もメリット。一方、価格は樹脂製よりも高い。

紙マルチ「ＯＪＩサステナマルチ」を２０２４年から一般販売する王子エフテックスによると、「特に樹脂製マルチが全国的に品不足となった4月中旬以降に問い合わせ、受注が増えた」。売り上げが前年に比べて3倍に増えた月もあった。農家からは、樹脂製マルチの不足を懸念し「秋作用の準備に欲しい」などの問い合わせが増えている。紙マルチの供給は滞りなく、在庫も十分にあるとする。

価格の差縮まる

価格面でも変化がある。従来は一般的な黒ポリマルチとの価格差が3倍ほどあった。中東情勢の影響でポリマルチの価格が上がり、2倍程度まで縮まったという。

「和紙マルチ」を昨年から試験販売している日本製紙パピリアも、問い合わせが増えていると説明する。まだ本格販売前のため、農家には製品の特性を紹介した上で一度試すように促している。

王子エフテックスは、樹脂製マルチとは伸縮性が異なるため、マルチ張り機の設定は緩めにするのが重要とする。気化熱で温度を下げる仕組みのため、適度なかん水も促す。（板倉直樹、小林千哲）

©日本農業新聞　無断複製転載を禁じます。